

日本語作文

問題 次の文章は、韓国の翻訳家が、日本の出版社の編集者に、三浦しをんの著書『舟を編む』をプレゼントしてもらって嬉しかったという文章の続きである。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

(クオン・ナミ著、藤田麗子訳『面倒だけど、幸せになってみようか 日本文学翻訳家の日常』平凡社、二〇二五年、二九―三二頁)

注

腑に落ちる 納得する。

匙を投げる あきらめる。

本屋大賞 日本全国の書店員が「いちばん売りたい本」を投票で決める賞。

直木賞 日本の文学賞。

ノミネートされる 受賞の候補になる。

ウイットが効いている 表現や言い方が気が利いている、ユーモアがある。

問い一 傍線部①「「ああ、そういうことね」と腑に落ちた。」とあるが、なぜ著者は「腑に落ちた」のか、理由を100字以内で書きなさい。

問い二 傍線部②「私のもとにやってきたのは運命だと感じたからだ。」について、筆者はなぜ「運命」だと感じているか。150字以内で書きなさい。

問い三 「言葉のニュアンス」というタイトルで自由にエッセイを500字以内で書きなさい。